

演奏会マネージャーのお仕事

～合唱団のための～

Kindle版
電子書籍

コロナ禍もようやく終息の気配がみえてきました。これまでの長く辛かった3年間から解放され多くの演奏会や催しがめじろ押しに開かれるようになってきました。

演奏会主催者にとっては規模の大小にかかわらず、複雑な仕事をこなさねばなりません。多くの合唱団では周年記念などでたまに経験することであり、経験者がいれば安心ですがそうでない場合は大変気を使うのではないのでしょうか。

¥0で読めるマニュアル

兒玉昭彦さんの著書『演奏会マネージャーのお仕事～合唱団のための～』は、演奏会の準備から終了後の後始末まで、すべての業務を網羅したマニュアルとなっています。

Kindle版(電子書籍)としてAmazonから出版(価格¥0)されています。詳しくは[Kindle Unlimited](#)をご覧ください。



演奏会にまつわる業務を網羅

全体は大きく三つに分けられています。第1章ステージマネージャー編では、ホール選定からはじまり、予算作成、座席の扱い(指定席か自由席か)、曲目決定、印刷物手配、録音録画、写真、レセプション・打ち上げに至るまで項目ごとに丁寧に書かれています。第2章フロントマネージャー編は、演奏会当日にフロントマネージャーがやるべき業務として、ホールとの打合せ、チケットの処理、招待者への対応、場外・場内整理などについて詳述されています。第3章情宣・渉外編では、友誼団体や後援団体を増やし、チラシを撒くことを強調しており、広報の有効なツールとしてネット(SNS等)の活用を上げています。

内容は具体的に読みやすいです。たとえば、「団員のチケット負担の考え方」について、1,000席の会場で全席指定、団員

40人の場合、一般売り・招待等で80枚あったとすると、残り920枚を団員数40で割った23枚を負担してもらうこととなります。そこで、経費予算が120万円ならば1人あたり30,000円となり、チケット1枚に換算すると約1,300円、これを元に団員は席の種類(S,A,B等)を勘案して手配します。

また、自由席の場合はキャパシティを超えて発券すべきとされています。つまり、①団員がさばき切れない可能性があり、さらに②チケットを手にした人が全員来るわけではないからです。団によって事情は異なるでしょうが、良くて①は50～80%、②は70～85%とみています。仮に①70%、②80%とすると700席(1000席のホールがほぼ満員に見える人数)を埋めるには、1,250枚まで発券してよいことになります。

しかし、実際には、このような計算通りにはならず、タダでばら撒くなども含めてがんばって配らないといけないのが現実とも、漏らしています。

兒玉昭彦さんのメッセージ

自分の所属する合唱団の演奏会をもっとスムーズに開催したい、もっとたくさんのお客様に聴いていただきたいと思いませんか？ 合唱団の演奏会を開催するために必要となる「演奏会マネージャー」の仕事。その計画から準備、当日の仕事、情宣・渉外に至るまで、一流の演奏会を開催するためのノウハウをこの一冊に凝縮しました。合唱団に関わる方は必読です。

[Amazon.co.jp: 演奏会マネージャーのお仕事～合唱団のための～ eBook : Echotama: Kindleストア](https://www.amazon.co.jp/dp/B098888888)

兒玉昭彦さんプロフィール

長野県更級郡上山田町生まれ、長野県埴科郡戸倉町で育つ(いずれも更級市と合併し、2003年からは長野県千曲市)。合唱は小学校4年生から。



長野県屋代高等学校、慶應義塾大学経済学部卒業。大学では慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団に所属。自他ともに「ワグネル学部卒」と呼んでいる。大学2年のときOB担当マネージャーになったのが運の尽き。以来マネージャー業が本業に。雇われマネージャーも数知れず。最大は日本男声合唱協会(JAMCA)演奏会で500人をマネージングした経験あり。